

2020年度外国人留学生入学試験「専門試験」「小論文」等の狙い・意図・採点のポイント

学科・専攻	専門試験（芸術学科は小論文）		面接	
	狙い・意図		狙い・意図	
日本画	グレーの色面を画面の中にどう配置するか。 人物をどう解釈し、表現するか。		持ち込み作品と実技試験の作品を比較し、精察した。	●
油画	デッサン力や線の具の扱い、構成力などの基礎的な力量を見極めることに加え、モチーフを通して、テーマである「つながり」を表現するための想像力や思考力をみることが今回の出題のねらいである。		実技試験について「つながり」という出題テーマをどのように表現したか、提出作品の制作意欲や日本語によるコミュニケーション能力などから総合的に判断した。	●
版画	専門試験では大学4年間の学びの基礎的な造形表現力を評価する出題としました。 その評価のポイントは次の4つが挙げられ、1)～4)へと段階的に評価します。 1) 形態、量感、空間をしっかりと把握し、表現できているかどうか 2) 細部、質感の集中的な描きこみができているかどうか 3) 構図、構成のバランスがとれているかどうか 4) 作者が何に興味をもち、どのようなテーマをもって取り組んだか 今回のモチーフは、ミツカン殺物酢と紙ふうせんでした。 1) の形と立体の表現は必要最低限クリアしなくてはならないポイントです。 ミツカン殺物酢の形が描かれていることがポイントとなります。 そこに採点に大きく関わってくるのは、2) の細部と質感の描きこみです。 異なる2つの素材のもつ特徴、ガラス瓶と紙ふうせんの質感が、どのくらい描けたかが大きなポイントとなります。		面接時の質問事項 1) 日本への留学理由と多摩美術園を志望する理由 2) 大学4年間で何を学び、卒業後何をしたいか 3) 持参作品のプレゼンテーション 4) 現在取り組んでいること、または興味があることについて 面接員とのやり取りに際しての評価のポイント 1) 面接員の質問を理解して、適切に回答できる 2) 自分のアピールポイントを分かりやすく話すことができる 3) 持参作品のプレゼンテーションを分かりやすく行うことができる 持参作品に関しての評価のポイント 1) 持参作品の完成度が高い 2) テーマ、技法などに独自性がある	●
彫刻	基礎的なデッサン力と図面と共に、抽象的なテーマである「球体」をいかに捉えながら、具体的な目像とをどの様に画面の上に展開、構成できるのか。 ステレオタイプに陥らずに確かな意志を持った造形力と柔軟な創造性を試しました。		基礎的な日本語能力を図り、日常的なコミュニケーション能力を有しているか。 また彫刻芸術に対する認識や興味、更には本学に対する志望動機や入学後に希望する研究領域などを確認しました。	●
工芸	形態、素材感、色彩感、立体感、空間的な配置、画面構成などの基礎的な描写力を確認する。 また、鉛筆デッサンといえども、対象に向き合う際の作者の感動が伝わってくるような画面の雰囲気や表現力も期待する。		なぜ本学の工芸学科を選んだのか、そして何を学びたいのか。 将来の展望等について熱意と説得力のある答えを望む。 同時に、実技試験を終った感想を話してもらうことで、本人の制作についての考え方や取り組み方を再確認したい。 また、面接の受け答えと小論文において、本学での学業を達成するために必要な日本語の能力を確認する。	●
グラフィックデザイン	・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・伝達力 問題や状況を正確に表現しているか ・発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか ・描写力 構図、形、動き、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・個性 デッサンからうかがえる品格、感性に優れているか		・日本語で日常会話が行えるか ・専門分野の用語が理解できるか ・入学志望理由が明確であるか ・自分の意見が述べられるか	×
プロダクトデザイン	・理解力 問題の把握、理解が適切か ・発想力 アイデアが優れているか ・独創性 他にないアイデアか ・実現力 アイデア具体化方法の知識があるか ・表現力 アイデアが伝わる表現か		・授業に必要な対話力があるか ・本専攻の内容を理解しているか ・本専攻への入学意図は明確か ・自分の意見を述べられるか ・学習意欲が感じられるか	×
テキスタイルデザイン	・理解力 問題を把握し意図を理解しているか ・観察力 対象に向き合い細部まで丁寧に観察しているか ・描写力 構図、形態、質感などを描写する基礎的な力が備わっているか ・色彩表現力 モチーフの観察から抽出した色を中心に、優れた配色がなされ表現できているか ・個性 出題に対して積極的に取り組み、自由に発想し独創的に表現できているか		・授業についていくことができる日本語によるコミュニケーション能力があるか ・本専攻の特徴を理解し志望理由と留学する意図が明確であるか ・授業への取り組みの熱意、意欲があるか ・持参作品に基礎的な造形力、色彩表現力、独創性があるか ・将来にどのようなビジョンをもっているか	●
環境デザイン	環境デザインを学ぶ上で最低限必要な基礎的な造形力、および基礎的なデッサン力があるか。 形、空間を把握し、平面上に表現する能力があるか。		本学科の授業を理解できるだけの日本語会話能力があるか。 日本で、また多摩美術大学で学びたい理由がはっきりしているか、 本学科で環境デザインを学ぶ意欲、目的意識がはっきりしているか。	×
情報デザイン メディア芸術コース	ODというモチーフの形態と質感をしっかりと捉えられること、 モチーフと手により空間を構成できること、 さらにそれを総合的に表現できる基礎的なデッサン力を見ること。		・ポートフォリオに基づくプレゼンテーションで、 作品のコンセプトや制作過程を自分の言葉で伝えることができるかどうか。 ・実技試験の感想を聞いて、出題意図の要点をどれだけ把握できているかどうか。 ・入学後の関心分野についての質問で、 どのような将来ビジョンを持っているのか。 ・日常会話に支障がないかどうか、日本語の習熟度の確認。	●
情報デザイン 情報デザインコース	手とモチーフ（クリップ）の鉛筆デッサンを通じて下記の評価を行った。 ・大小のクリップの描き分けが描かれているか ・大小のクリップと手とのバランスがとれているか ・金属と手との質感の違いを描き分けられているか といったことをポイントにデッサン力を見る。		・自己アピールなどプレゼンテーション力があるか ・日本語でのコミュニケーション能力があるか ・プレゼンテーションにおいて、 作品の制作の意図・過程・結果・価値を説明できるか ・入学後の具体的な学習・研究イメージがあるか ・情報デザインの分野の専門性を理解しているか	×
芸術	日本語の習熟度だけでなく、思考力をみます。 論述の着眼点が出題内容に対して的確であるか、論旨は明確で説得力があるか、 という点も判断基準となります。 常識的にまとめあげた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待しています。		外国人留学生の存在は他の学生にとっても大きな刺激になります。 面接試験では、直接本人と会って日本語能力が適切であるか、 芸術に関する最低限の基礎知識をもっているか、などを判定します。	×
統合デザイン	・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・観察力 日常の気付きからアイデアを導きだしているか ・発想力 イメージを具体化するアイデアが優れているか ・描写力 構図、形、光、質感などを描写することに必要な技術が優れているか ・視点 事象をとらえる感覚とその表現が適正で感性に優れているか		・入学志望理由が明確であるか ・本学科の内容を理解しているか ・授業に必要な対話力・語学力はあるか ・授業への取り組みの意欲があるか	×
演劇舞踊デザイン 演劇舞踊コース	舞踊：歩き/ジョギング/音楽と一緒に即興的な動きの3つの項目を実施。 身体を動かしながら日本語の口頭での指示を聞き取り、指示を基にして何らかの実践することができているかを見た。 聞こえてきた音楽を、自分なりの身体的な感覚で受け取る試みができるかどうかを見た。 演劇： 1) 母国語での自己紹介、後に同じことを日本語でもう一度実施。 日本語の表現力、自己を表現する力を見た。 2) 今日朝起きてから家を出るまでの出来事を即興的に表現するエチュード。 発想力や表現の独自性を見た。 3) 激しく動き続けた後(20秒)、最後に自分の持っている最大限の声を出す(5秒)。 声量や声の大きさを確認すると同時に、求められたことに対しての各自のエネルギーのかけ方を見た。 4) テキストの台詞を読む。 言語的な表現能力と感性、表現の幅を見た。 5) 全員で一つのテーマを表現する寸劇を創作する。 自由な課題の中でどの様な発想をもつか、集団創造におけるコミュニケーション能力が高いかを見た。		主に自身の国を離れて日本に来て学ぶ動機と、大学の中でも多摩美術を目指す意志を尋ねた。 実技試験の感想、日常的にどのような事柄に興味があるかを尋ねた。 他、基礎過程の2年間に演劇と舞踊の両方を学ぶことに耐性があるかどうか、 必修科目の中に日本語で実施される講義科目があることを承知しているかを確認した。	×
演劇舞踊デザイン 演劇美術デザイン コース	単に置かれたモチーフを観察し正確にデッサンするだけではありません。 基礎的なデッサン力と共に、自由な発想や構図で、独創性や構成力を見ることがねらいです。 情景を想定するということは、モチーフから物語を創造してドラマチックな世界観を創出することも出来ます。 今回は、クリスマスを連想させるモチーフが出題されています。 そこから発想した表現を期待しています。 近年、大膽な構図や独自の発想が増加しています。 しかし素材感を表現できていないもの、妙な描き方の回答は評価が低くなります。 光の捉え方（陰影の表現）は重要なポイントとなります。		面接試験では持参した作品の説明に重点をおいています。 作品は、デッサンや色彩構成などのベーシックなものから、 個人作品として制作したもので幅広いラインナップが望ましいです。 作品説明において、明快なコンセプトとそれを実現するための表現を 的確に説明出来ているかを評価の基準としています。 また、決められた時間内に説明ができることも重要な要素です。 説明や質疑応答時に、日本語でスムーズに会話が出来るか、 意思疎通が可能で語学力を有しているかも判断します。 この学科への志望動機や目指したい方向性が明確かなども重要です。	●

全学科共通小論文

- 1) 題：「私に興味のある日本美術」という題で、あなたの志望分野をふまえて、800字程度の文章を書きなさい。
- 2) 日本美術に対してどの程度の知識理解があるかを問い、当大学で何を学びたいと考えているかを判断した。
- 3) 正しい日本語によって書かれているか。また意味内容が明確であり、かつ強い意欲が感じられるかという点についても合わせて考慮した。